

「ブルーインパルス展示飛行と気象隊の関わり」

【第7回】ブルーインパルス展示飛行と気象隊の関わり

航空気象群ホームページのコラム「気象の杜」をご覧くださいありがとうございます。今回は、「杜の都 仙台」に近い、松島気象隊からお届けします。

松島基地は、第4航空団の戦闘機パイロットの教育を任務とする第21飛行隊、戦技研究及び展示飛行を任務とする第11飛行隊（ブルーインパルス）、航空救難を任務とする松島救難隊が所属する基地です。このため、松島気象隊は、他の気象隊に比べて、展示飛行に係る気象情報を多く取り扱っています。



具体的には、展示場所に向かう約2日前から、運航期間（展開、事前訓練、展示及び撤収）の風向風速、視程（見通し距離）及びシーリング（雲の高さ）がどのような状況か、また見通せる距離や雲の高さがどこまで悪化するか数値で明確に予報し、気象ブリーフィングで飛行隊等に伝達しています。

このとき、展示会場の天気だけではなく、離着陸する飛行場や天候急変に向かう代替飛行場の気象情報も必要となります。そのため、関係する気象隊にも協力を得て、多いときは5日間先、10カ所以上の飛行場や展示会場の予報を気象ブリーフィング時刻までに作成しています。

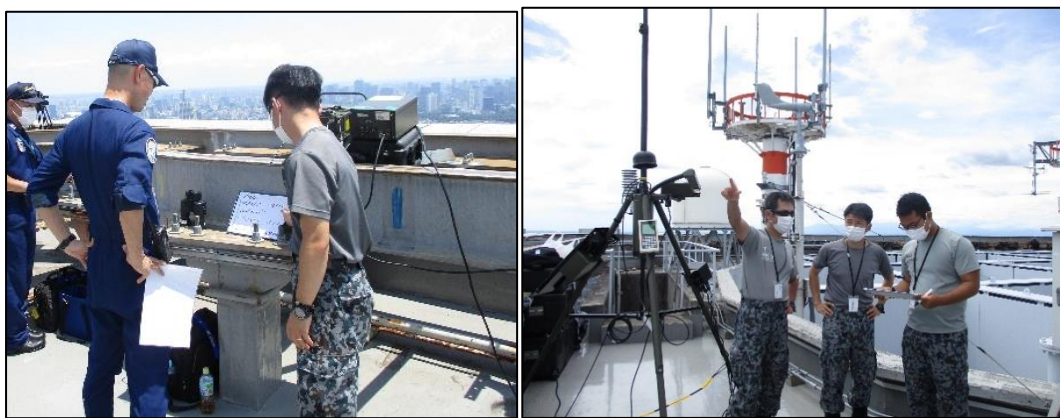


（毎朝0540頃に予報検討会を行っています。）

周囲に気象観測データが得られない場所で展示飛行が行われるときは、気象観測員が展示会場付近で携帯型気象観測装置（TACMET-R）を使い気象観測を行います。

代表的な例は、東京オリンピック・パラリンピック開会式において東京都庁屋上で気象観測を実施し、その結果をブルーインパルスの上統制官に伝え、展示飛行の実施可否や飛行区分の判断基準に活用されました。

このときに使用する携帯型気象観測装置（TACMET-R）は、気象データが得られないような場所でも、飛行場の気象観測装置とほぼ同等の観測値（風向風速、滑走路視距離（RVR）、現在天気、雲の高さ、気温、露点温度、湿度、気圧及び降水量）を得ることができ、発雷の位置を測定することができる器材です。



（東京オリンピック・パラリンピックにおける都庁屋上での気象観測）

このようにブルーインパルスの展示飛行と気象隊は深い係りがあるのです。

航空気象群は、これからも真摯に任務を遂行するとともに、自然災害及び国内外の運航等、あらゆる状況において積極的な気象支援に努め、航空機の運航や国民の生活の安全に寄与していく所存です。

ちなみにブルーインパルス展示飛行の会場等で空模様を凝視している自衛官を見かけたら、気象隊員（空自内の比率2%以下の激レア隊員）かも知れません。気象隊員は、天気を操る特殊能力を持っているという都市伝説もありますので、応援していただくと天気が回復し、晴れ間が広がるかもしれません。



松島気象隊エンブレム